

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter

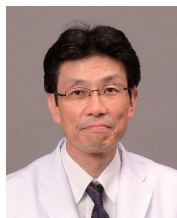


平成27年度 第2号
2016年1月15日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館 3F
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

日本リハビリテーション医学会近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。また、近畿地方会の運営へのご協力に対しまして、近畿地方会幹事会を代表し心よりお礼申し上げます。

さて、近畿地方会にとって、今年はBig yearでもあります。近畿では13年ぶりとなる学術集会を久保俊一先生(京都府立医科大学)が会長として開催されます。これまでにない規模での開催となりますので、近畿地方会としても一丸となり、協力していく所存です。近畿地方会会員の皆様の全員参加を強くお願い申し上げます。

また、来年2017年10月28～29日には公益社団法人日本リハビリテーション医学会(以下、日本リハ医学会)専門医会学術集会が発展した第1回日本リハ医学会(秋季)学術集会(会長 菅本一臣先生(大阪大学))が大阪国際会議場で開催されます。同時に新専門医制度下での専門医研修プログラムも始まります。そして、2025年を目途とされる地域包括ケアシステムの構築においてもリハビリテーションは非常に重要な役割を担っています。

大きなニュースはまだ続きます。昨年6月にベルリンで開催された第9回The International Society of Physical and Rehabilitation Medicine(国際リハビリテーション医学会、ISPRM)にて、2019年のISPRM日本開催(2019年6月9-13日・神戸)が決定しました。ISPRMの招致にはISPRM招致委員会(委員長・才藤栄一先生)が中心となり、なかでも道免和久先生(兵庫医科大学)は文字通り

CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 1頁
- ◆第53回日本リハビリテーション医学会学術集会
準備状況について..... 1-2頁
- ◆ISPRM招致・神戸開催について 2-3頁
- ◆第3回近畿地区新専門医交流会の開催報告 3頁
- ◆第40回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 4頁
- ◆第40回近畿地方会学術集会開催概要 4頁
- ◆2016年度近畿地方会研修会カレンダー 5頁
- ◆編集後記 5頁

不眠不休の努力(実際、プレゼンテーション直前は連日徹夜で作業)で招致のためのプレゼンテーション資料・DVDを作成され、ベルリンでの決定を勝ち取りました。同年の日本リハ医学会学術集会(第56回)も神戸で開催される予定です。また、同じく2019年にはInternational Society for Prosthetics and Orthotics(国際義肢装具協会、ISPO)の神戸開催(2019年10月7-10日)も決定しています。さらにその翌年には、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)にあわせて東京2020パラリンピック競技大会も開催され、日本リハ医学会の国際化がこれから一気に進展、開花致します。

このように今から、日本のそして近畿地方のリハビリテーション医学・医療に追い風が吹いてきます。近畿地方会ではこれらの事業や課題に乗り遅れることなく、また、風に煽られて転倒することなく(笑)、足腰を鍛えてチームとして対応して参りたいと思います。

これまで以上の近畿地方会会員の皆様のパワーやアイデアと地方会への参加が必要ですので、暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

第53回日本リハビリテーション医学会学術集会のご案内

第53回日本リハビリテーション医学会学術集会幹事
京都府立医科大学リハビリテーション医学 准教授 池田 巧

第53回日本リハビリテーション医学会学術集会を2016年6月9日(木)～11日(土)の3日間、国立京都国際会館と隣接するグランドプリンスホテル京都で、京都府立医科大学の久保俊一副学長を会長として開催いたします。京都での開催は、国際リハビリテーション医学会第8回世界大会(IRMA VIII)に合わせて開催された1997年の第34回学術集会以来の19年ぶりで、京都の教育機関が担当するのは今回が初めてです。学術集会のメインテーマは「軌轍(Kitetsu)

と融和(Yuwa)」としております。多くの先人が積み重ねてきた知恵、すなわち軌轍を正視し、分野を超えた融和を通してリハビリテーション医学が飛躍できるようにとの思いを込めています。

現在プログラム案の骨子が確定し、鋭意準備を加速させております。多くの関連学会・協会との合同企画として、日本整形外科学会、日本運動器科学会、日本臨床整形外科学会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本心臓リハビリテーション学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本義肢装具学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本関節リウマチのリハビリテーション研究会、PT、OT、ST、PO協会など、リハビリテーションに携わるすべての職種が満足いただける企画が満載です。2019年6月に神戸で国際リハビリテーション医学会

(International Society of Physical and Rehabilitation Medicine: ISPRM)の開催が決定しております。それを記念してISPRMとの合同シンポジウムも開催いたします。

基調講演、文化講演、会長講演、26の特別講演、7の海外招待講演、80以上の教育研修講演を企画しております。学術集会への参加や教育研修講演などを受講することで単位を取得いただける予定です(表)。ランチョンセミナーをはじめとする共催セミナーは40以上準備しており、3日間を通して会場内で学んでいただけるプログラムとなっております。また第51回、52回学術集会に引き続き、リハビリテーション医療を専門とする多職種の方々からの演題を募集して、関連専門職ポスターセッションを同時開催いたします。

展示会場では、ロボット、薬物療法、生体物理刺激療法、義肢装具、摂食嚥下、介護福祉用品、未来を拓く展示などのテーマ別に充実した企業展示を企画しています。企業や研究機関に最新の情報を披露してもらい、日々の臨床や産学連携に結びつく機会を作ります。

6月の京都は若葉の美しい季節です。伝統と創意の街をご堪能いただき、心身ともにリフレッシュしていただければと願っています。特別企画として6月10日(金)には、世界遺産 清水寺の貸し切り夜間拝観も予定しています。学会ホームページから事前参加登録を受け付けます。事前登録していただくことで、参加費のディスカウントだけでなく、共催セミナー、ハンズオンセミナー、清水寺夜間拝観への参加登録も可能となります。是非、期間内に登録よろしく願います。多くの先生方のご参加をお待ちいたしております。

事前登録期間:2016年1月15日～4月20日(予定)

URL: <http://www.congre.co.jp/jarm53>

表

第53回学術集会に参加することで単位を取得できる学会・協会

- ・日本看護協会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本言語聴覚士協会
- ・日本作業療法士協会
- ・日本シーティングコンサルタント協会
- ・日本小児神経学会
- ・日本神経学会
- ・日本心臓リハビリテーション学会
- ・日本頭痛学会
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- ・日本体力医学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本認知症ケア学会
- ・日本脳卒中学会
- ・日本脈管学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本理学療法士協会
- ・日本臨床神経生理学学会
- ・日本老年医学会
- ・日本老年精神医学会

教育講演等を受講することで単位を取得できる学会

- ・日本医師会
- ・日本整形外科学会
- ・日本リハビリテーション医学会

(五十音順)

国際リハビリテーション医学会2019年神戸開催決定

西宮協立リハビリテーション病院 勝谷 将史

兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授 道免 和久

国際リハビリテーション医学会(International Society of Physical and Rehabilitation Medicine:ISPRM)が2019年に神戸で開催される事が決定しました。日本リハビリテーション医学会では2014年からISPRM招致委員会(才藤栄一委員長)を立ち上げ招致活動をおこないプロモーション活動やプレゼン資料の作成、ISPRM担当視察団の対応などをおこなってきました。

そして、去る2015年6月19日から23日ドイツベルリンで第9回ISPRMが開催され6月22日の代表者会議にてオーストラリアのシドニー、インドのニューデリーと競い日本の神戸で開催される事が正式に決定したのです。

道免教授を中心としたプレゼンチームは先にベルリンに入り、私は遅れてのベルリン到着となりました。すんなり入国できると思っていたのですがまさかのトラブル、手荷物で持っていた会議で配布予定のプレゼン資料が入ったダンボール箱を怪しまれ別室に連行、屈強なドイツの空港職員に色々質問を受けるという貴重な経験をする事に、何とか無事に荷物と共に開放され学会会場に到着、資料を届ける事ができたのは今になってはちょっとした笑い話です。

ベルリンでのISPRMには日本から163人の参加者がありオーストラリアからの参加者は49人と参加人数では大きく勝っていたものの、前評判ではシドニーが最有力候補地として招致活動を展開していました。実際、代表者会議における日本のプレゼンテーション直前まではシドニーではほぼ決定していたという話もありました。しかしながら共通の赤いチーフを胸に日本からの参加者は大学の枠を越え結束、各国の参加者に対するロビー活動や個々で日本人の存在感をアピールしていきました。

代表者会議における日本招致チームのプレゼンテーションは大成功、特に開催都市神戸における震災からの復興・再生をキーワードとした動画や日本の文

